

日本看護系大学協議会 40 周年記念式典 “JANPU40 年の歩み、そして未来へ”

主 催：一般社団法人 日本看護系大学協議会

2016 年 1 月 30 日(土)

日本赤十字看護大学 広尾ホール

日本学術会議会長 大西隆

日本看護系大学協議会発足 40 周年おめでとうございます。日本学術会議を代表して、お祝いの言葉を述べさせていただきます。

実は、私が学長を務める国立大学も、今年 40 周年なので、協議会が 40 周年と伺って、親近感を覚えます。とはいえ、看護系 4 年制大学の中には、戦後間もなく発足した高知県立大学などのように、より長い歴史を持つ大学も少なくないと承知しています。看護師に対する期待が高まる中で、こうして 40 周年を迎えられたことは、ご関係の皆様これまでの努力の賜物であるとともに、更なるご発展の契機として意義深いと存じます。

我が国は、これから試練の時代を迎えると指摘されます。言うまでもなく、少子高齢化の試練です。これを超えて、合計特殊出生率を回復させ、安定した人口を維持する状態に至ることが望まれます。

一方で、人口ピラミッドの中で、もっとも突出している団塊の世代が 60 代後半に差し掛かかります。ますます加速する高齢化の中で、高齢者の健康維持や看護はますます重要となっています。

少子からの脱出、高齢社会への対処を如何に進めるのか、医療や介護、さらには健康づくりに携わる看護学の果たすべき役割は大きなものがあります。実は、本日のお祝いのメッセージを準備していて、看護師の国家試験合格者が最近では年に 5 万人を超え、その中で、看護系大学が果たしている役割は年々増大していることを知り、皆様の果たしている社会的役割と、皆様への期待の大きさを改めて認識しました。

さて、日本学術会議でも、看護学の研究者が中心となって、2014 年 7 月に、「ケアの時代を先導する若手看護学研究者の育成」という提言を公表しました。その中で、ケアイノベーションという概念で、新しいケアの技術や考え方が求められていることを提起しています。異分野融合を通じた、看護学の更なる革新が謳われているのがとても印象的です。長寿化の中で人が人らしく人生を全うすることを助ける看護学の発展に期待がかかります。

結びに、看護と看護学の未来を担う看護系大学のますますの発展を祈念して、お祝いの言葉とします。本日はまことにおめでとうございます。